

足音

四月二十二日
石巻中一年
学年通信No.七

編集・発行
鈴木 孝明

『野外日記②』

二日目。天気はくもり。活動が続く昼まではなんとかもって欲しいと願う。

朝の集いでそろったみんなの顔。疲れはきつとあるだろうけれど、体調は良さそうだ。

朝食を摂り（納豆をひたすら混ぜ続けていた人がいたが、それについては割愛する）、芝生広場でプチ体育祭。

最初の種目は玉送り。列に並んで玉を受け渡し、最後尾で受け取った人はカラーコーンをめがけて全力で走る。ターンを攻めすぎて転んだ子に、すかさず「がんばれ！」の声が飛ぶ。

次は、背中を合わせてのボール運び。二人でバランスを保ちながら力二歩きをする。これがなかなかスピードが出ない。しかし、中には跳ねるような走り方である。どこに得意不得意が隠れているかはわからない



ものだ。

三種目は、スプーンリレー。おたまや軽量の小さなスプーンなど、さまざまな大きさのさじでピンポン球を運ぶ。走り出し、ボールを落として拾い、またボールを落として拾う。歓声と笑いが入り交じったあたたかな雰囲気競技だった。

最終種目は、一番練習していた長縄。本番に緊張したのか、なかなか一回目が飛べないチーム。回し手、跳ぶ人、さらには見守る仲間。その全てから励ましの声上がる。そんな声の後押しを受け、練習の様子からは考えられないほどの数をたたき出したチームもいた。

こうしてプチ体育祭は終了。振り返ってみると、どの競技も、どの瞬間もしっかりと盛り上がっていた。競技者の一生懸命な姿があったのはもちろん、それを応援する声も絶えなかったのも、要因の一つだろう。



しかし、見逃せない、というか聞き逃せなかった声がある。

実況者の声。レク係の実況が、あの広場の、あの光景に彩りを加えていた。もちろん、原稿なんてあるわけがない。その場の空気を的確に感じ取り、出す言葉、抑揚、あらゆる工夫を凝らしながら声を発していた。

初日のファイヤーでの司会や役者、さらには名実況までいることがわかった。

野外炊飯場での焼きそば作り。イベントとしてはこの野外活動のラストを飾るもの。

各炊飯場で班ごとに準備を始める。

食材を下ごしらえする人たち。どうやって切るのか、戸惑う人もいれば、小気味よいリズムでキャベツを切っている人もいる。それを見て、まねをするように他の班も切り始める。家で練習してきたのか、普段から料理をしているのかはわからないが、これもまた、普段の学校生活ではなかなか見られない貴重な姿だ。

炉に行けば、火付けに苦勞する人たち。火をつける経験が初めてだという人ばかりだという。マッチをつけるの



も一苦勞。新聞紙だけでは着火剤としては弱く、その場に落ちては枯れた杉の葉が、優秀な着火剤であることを知る。

何とかして、火が付き始める。そうすると、今度は想像以上の火の熱さに驚く。そんな中でも、熱さに耐えて鉄板の前でずっと作業をしている人たちがいる。焼きそばが焦げ付かないように、トンブで懸命にかき混ぜる。

焼きそば自体、料理としては簡単なものだけど、その簡単な料理一つ作ることに苦勞を、みなが知ったことだろう。やっぱり親御さんには感謝だ。

出来上がった鉄板にこんもり盛られたできたての焼きそば。野外炊飯の醍醐味の光景だ。

それを班のみんなで分け、みなで頬張る。最高のひと時。

退所式でセンターへお礼を伝え、バスで石巻中へと帰る道すがら、フロントガラスを雨粒が



たたく。二日目は雨の予定も覚悟していたが、全て晴れの案で実施できた。本当に、よくここまで持ちこたえてくれた。

解散式でみなの前に立つ。

この野外のテーマの「はじめの一步」。この野外は始まりである。みんなの中学校生活の始まりに記した確かな一步があったという事。力強く仲間とともに踏み出した一步、その足音は、確かに、力強く響いていた。

そして、「はじめの一步」には、「次の一步」が必ずあるということ。例えば、野外炊飯の片づけを振り返ってみれば、多くの人に混乱が見られた。片付けの仕方の指示は、初めに伝えられていた。聞いたことを行動に移す。簡単なようで、実はとても難しいということを知ったことだろう。間違いなくみんなの「次の一步」に必要な部分だ。

行事の成功は、その後の普段の生活が決める。また始まるこれからの日常の中で、次に踏み出す一步を大切にしたいと願う。

でも、みなを前にして、一番に思ったのは、やっぱりここにみんながそろっていること、その有難さ。無事に百二十四人、みんなで行って、百二十四人、みんなが無事帰って来られたこと。この上なく、うれしく、幸せなことだと思っ

た。



はじめの一步、本気、礼儀、最高の中学生。

目ざした姿は、みごとに達成できたことだろう。

次に踏み出すべき一步も見えたことだろう。

自分のさらなる可能性にも気づけた。さらにはこれまでも知らなかった仲間のすごさ、すばらしさも知ることができたことだろう。

この仲間とともに過ごす日々は、今、始まったばかり。まだまだこれからだ。でも、中学校の三年間は、本当にあっという間。とどまっている暇はない。

また、みんななどの日々がこれから始まる。その中で、百二十四人、全員で、次の一步を、その足音を、力強く踏み鳴らせ。

☆ 連絡

○一年生の体育の教科担当の先生が変わりますので連絡します。

・一年一組、三組 齊藤 葉子 先生
・一年二組、四組 石田 響子 先生

来週の四月二十五日(月)から授業を担当します。よろしくお願ひします。

○来週の月曜日は授業参観、さらに火曜日から木曜日に家庭所在地確認があります。

よろしくおねがひします。

